

平成26年度ミクロネシア諸島自然体験交流事業

国立花山青少年自然の家 施設滞在プログラム報告

1 趣旨

子どもたちの自然体験活動などの充実を図るために、日本と交流の歴史のあるミクロネシア地域の子どもたちとの相互交流を行う。国立花山青少年自然の家の所在地である栗原市内の小学校での授業交流、文化交流やホームステイを通して異文化理解を図るとともに当施設及び周辺の自然について学ぶ機会を提供する。

2 主催

独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立花山青少年自然の家

3 協賛・協力

株式会社ニッコトラスト、栗原市・栗原市教育委員会、栗原市立築館小学校・富野小学校

4 期日

平成26年6月20日（金）～6月23日（月） 3泊4日

5 場所

国立花山青少年自然の家

6 参加者の国・地域・状況

ミクロネシア連邦（ポンペイ州、ヤップ州）、パラオ共和国

	ポンペイ		ヤップ		パラオ		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
子ども	5	5	4	6	5	5	14	16
引率者	1	1	1	1	1	1	3	3
計	12		12		12		36	

7 施設滞在プログラム

月 日	活 動 内 容	場 所	
6月20日（金）	午前～午後	・くりこま高原駅到着 ・学校訪問・交流会（文化・授業交流） ・市長・教育長表敬訪問	くりこま高原駅 栗原市立築館小学校 栗原市役所
	夜間	・花山青少年自然の家での生活	花山青少年自然の家
6月21日（土）	午前～午後	・巖美溪谷の自然散策 ・サハラガラス館の見学 ・中尊寺見学	一関市巖美 奥州市平泉中尊寺
	夜間	・ホストファミリーと対面、日本の生活	各ホームステイ先
6月22日（日）	午前～午後	・ホームステイ先での生活 ・フェアウェルパーティー	各ホームステイ先
	夜間	・ホテルでの生活	エポカ21（清流の間） エポカ21
6月23日（月）	午前	・ショッピングモール散策 ・くりこま高原駅出発	イオン志波姫ショッピングセンター くりこま高原駅
	午後～夜間	・国立オリンピック記念センターでの研修	国立オリンピック記念センター

8 活動状況

(1) 栗原市立築館小学校での文化交流・授業交流会



築館小学校において、築館小学校全校児童483名と来年度から統合する富野小学校の全校児童21名と一緒に交流会を行った。最初に築館小学校3、4年生が栗原音頭の踊りを披露し、次に富野小学校の児童たちによる伝統芸能「鶏舞」を披露した。続いてポンペイ州、ヤップ州、パラオ共和国の順に踊りを披露した。全校での交流会後は、6年生の各クラスに分かれ、体育、書道、音楽の授業を通じ交流を深めた。

(2) 栗原市長・教育長表敬訪問



築館小学校での交流会を終え、栗原市長・教育長表敬訪問のために栗原市役所庁舎に移動した。市庁舎には大勢の栗原市職員の皆さんが市庁舎ベランダ、玄関に出て迎え入れていただいた。市庁舎2階の講堂に入り、市長・教育長表敬を行った。市長歓迎あいさつ、訪問団よりあいさつを交わし、最後に栗原市マスコットキャラクター「ねじりほんによ」とともに記念写真を撮影した。

(3) 一関市巖美溪谷散策・奥州市平泉中尊寺



栗原市に隣接する一関市、奥州市を訪れた。巖美溪谷は、岩手県一関市にある磐井川中流の溪谷であり、栗駒山を水源とする。国の名勝及び天然記念物に指定された場所であり、川の流水が巨岩を浸食し、甌穴・滝・深淵を見ることができる。全員で周辺を散策し溪谷の自然の姿を実感した。午後から世界遺産に登録された奥州市平泉を訪れた。平泉では国宝「中尊寺金色堂」、特別史跡「中尊寺境内」を拝観した。栗原市には平泉文化の影響を受けた史跡が点在しているが、中尊寺の見学では、栗原の歴史的なつながりや奥州藤原の黄金文化を今に伝えている様子を目で確かめ、地域の文化を感じてもらった。

(4) ホストファミリーとの対面・ホームステイ先での生活・フェアウェルパーティー



4月に栗原市内に在住する家庭（築館小学校区を中心に）にホストファミリーを募集したところ19家庭の協力を得ることができた。



ホストファミリーとの対面からフェアウェルパーティーまでの間、参加者にはホームステイによる日本の生活体験をしてもらった。受け入れた家庭では、普段どおりの生活とはいえ、異国の人々を迎え入れることに緊張感があった。最初のうちは、言葉の壁に戸惑いがあったようだが、時間とともに言葉の壁を乗り越えてコミュニケーションを深めていった。パーティーを終え、別れ際に涙を流す家族、参加者の姿も多く見られた。短い時間であっても、互いに理解し合う貴重な時間を過ごすことができたようだ。パーティーの中で翌日の新幹線出発時刻のアナウンスをしておいたところ、当日に駅ホームまで10家庭ほどお見送りにきていた。

9 成果と課題

(1) 成果

- ・ 学校交流会は、日本人小学生にとって異文化を理解するよい機会となった。6年生との学級単位での授業交流については、少人数でのかかわりが参加者、日本人小学生との距離を縮めるよい機会だった。日本人小学生にとってコミュニケーションを図る手段として英語の学習に対する興味が高まるなど子どもたちの意識に変化が見られた。
- ・ 市長・教育長表敬訪問では、市担当者の計らいにより多大な歓迎をいただいた。参加者にもその気持ちが十分に伝わっていた。
- ・ 文化体験、自然体験では栗原に関係する地域での体験をプログラムに取り入れた。体力的にあまり負荷のかからない内容だったので参加者にとって落ち着いて見聞を広められた。
- ・ ホームステイ先の確保に当初難しさがあつた。今回の受入の経験が口コミで広まり、地域に国際交流への意識が広まった。

(2) 課題

- ・ 学校交流会の日程において時間的に余裕がなかった。地方施設到着時刻を早めるなど、交流のための時間を確保することで、交流の深まりを促したい。
- ・ 表敬訪問では、逐次通訳に必要な原稿等を事前に収集し、より円滑な進行を行いたい。
- ・ 参加者の疲労が気になるというホストファミリーからの意見があつた。地方施設での体験プログラムでは、そうした点に配慮した準備を進めるとよい。
- ・ ホームステイ先については、言葉の壁が受入の障害になっていた。今回の受入経験者を活かした募集の方法等について、学校関係を含めて地域で構築できるとよい。